

召会生活の回復のための極めて重要な要因

(金曜日——午前の第一の部)

メッセージ 1

第一の要因：主と協力して、新しい復興をもたらし、この時代を終結させる

聖書：ハバクク 3:2. 使徒 26:19, 22. マタイ 14:19, 22-23.

ピリピ 1:19-22, 25. ヨハネ 21:15-17

- I. 神の選民の間には常に、復興されるという切望がありました——ハバクク3:2. ホセア 6:2. ローマ8:20-22. 詩119:25, 50, 107, 154. ヨハネ6:57, 63. IIコリント3:3, 6.
- II. わたしたちが新しい復興の中へと入ることができるのは、神がわたしたちに与えた神聖な啓示の最高峰、すなわち、神の永遠のエコノミーの啓示に到達することによります（Iテモテ1:3-4. Iコリント9:17. 使徒26:19, 22）。これが、神が人を創造したことでの、また神が彼の選ばれた人を対処することでの、神の目的についての大きいなる質問に対する大きいなる答えです（創1:26. ヨブ10:13. 参照、エペソ3:9）：
 - A. 神の心の中に隠された奥義は、神の永遠のエコノミーです（エペソ 1:10. 3:9. Iテモテ 1:4）。神の永遠のエコノミーとは、神の永遠の意図と神の心の願いであって、それはご自身を彼の神聖な三一において、御父として、御子の中で、その霊によって彼の選ばれた人々の中へと分与して、彼らの命また性質とならせることです。それによって、彼らは彼の複製として彼であるのと同じになり（ローマ 8:29. Iヨハネ 3:2）、有機体、新しい人としてのキリストのからだとなり（エペソ 2:15-16）、また神の豊満、神の表現となって（1:22-23. 3:19）、新エルサレムにおいて究極的に完成します（啓 21:2 — 22:5）。
 - B. 神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となり、キリストのからだを生み出し建造して、新エルサレムを究極的に完成するためです。これは全聖書の本質、聖書という「箱」の中の「ダイヤモンド」、神の永遠のエコノミーです——創 1:26. ヨハネ 12:24. ローマ 8:29：
 1. 神は人の人性にあずかることによって、肉体と成ることを通して人と成りました。人は神の神性にあずかることによって、造り変えを通して、神格においてではなく命と性質において神となります——ヨハネ 1:14. IIコリント 3:18. コロサイ 3:4. IIペテロ 1:4. ピリピ 2:5. ローマ 8:29. ヘブル 2:10. エペソ 1:5. ローマ 8:19. Iヨハネ 3:2. ヨハネ 1:12-13。
 2. この神と人のロマンスは、全聖書の主題、神のエコノミーの内容、全宇宙の秘密です——雅 1:1. 6:13. 参照、ハバクク 1:1. 2:4. ローマ 1:17：
 - a. キリストは神であり、また人であり、彼の造り変えられた愛する者は人であり、また神です。彼らは命と性質において同じであり、互いに完全に符合しています。
 - b. 三一の神は究極的に完成されて夫となり、三部分から成る人は造り変えられて花嫁となります。これは一組の夫婦、団体の、大きいなる神・人です——啓 21:2, 9.

22:17 前半。

- C. 神の中心的な啓示、また主の回復の中心的な啓示とは、神が肉体と成り（ヨハネ 1:1, 14）、肉体が命を与える霊と成り（I コリント 15:45 後半）、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って（啓 1:4, 3:1, 4:5, 5:6）、召会を建造し（マタイ 16:18）、召会がキリストのからだとなり（エペソ 4:15-16）、新エルサレムを究極的に完成するということです（啓 21:2, 9, 22:17 前半, 参照、創 2:22, ヨハネ 19:34）。
- D. 神と人は一つの実体となります。その一つの実体は、神性と人性のミングリングであり、新エルサレムにおいて究極的に完成し、全聖書の結論となります——啓 21:3, 22, 2, 9, 参照、レビ 2:4-5, 詩 92:10。
- E. 「わたしが望むのは、全地のすべての召会の聖徒たち、特に同労者たちと長老たちが、この啓示を見て立ち上がり、神がわたしたちに新しい復興、歴史において決してなかった復興を与えてくださるようにと祈ることで」——「歴代志上、下ライフスタデイ」、メッセージ 2。
- Ⅲ. わたしたちが神・人の生活、すなわち、キリストのからだの実際を生きることを実行するなら、自然に団体の模範、すなわち神のエコノミーの中で生きる模範が建て上げられます。この模範は、召会の歴史における最大の復興となり、主の再臨をもたらします——詩48:2とフットノート1, 啓3:12, 21 :
- A. 神が必要とするのは、団体の人々が神の恵みによって、神聖な啓示の高嶺を通して起こされ、この啓示にしたがった生活をするということです。復興は、わたしたちが見てきたビジョンを実行することです。
- B. キリストに従う者たちは（マタイ 5:1, 28:19）、弟子として構成されました。それは、地上でのキリストの人の生活を通してであり（キリストの人の生活は神・人の原型であり、人性におけるご自身を否むことによって神を生きました——ヨハネ 5:19, 30）、人についての彼らの観念を徹底的に変えました（ピリピ 3:10, 1:21 前半）。
- C. わたしたちの生活は、第一の神・人であるキリストの生活の模範の複写、複製であるべきです——I ペテロ 2:21, マタイ 11:28-29, エペソ 4:20-21, ヨハネ 17:4, 5:17, ピリピ 1:19-22, 25。
- D. 弟子たちの中へと息吹き込まれた命と実際の霊は、彼らが三年半の間、主と共にいたとき、主について観察してきたことのすべての実際へと導きます——ヨハネ 16:13, 20:22 :
1. 第一の神・人の務めの開始の時、彼はバプテスマされてすべての義を成就し、彼の肉（彼の人性——ヨハネ 1:14, ローマ 1:3, 8:3）によれば、彼が死と葬り以外に役に立たないことを承認しました——マタイ 3:15-17。
 2. 彼は五つのパンと二匹の魚で五千人を養った奇跡の中で、彼から学ぶようにと（マタイ 11:29）、彼の弟子たちを訓練しました。彼が「天を見上げて」、五つのパンと二匹の魚を祝福したこと（14:19）が示しているのは、祝福の源が彼、すなわち遣わされた方ではなく、御父、すなわち遣わす方であることを、彼が認識していたということです（ヨハネ 10:30, 5:19, 30, 7:6, 8, 18）。
 3. 主は群衆と共に奇跡の結果にとどまっていたのではなく、彼らから去って、ひそか

に山上で御父と共にいて祈りました——マタイ 14:22-23. ルカ 6:12。

4. 主は神と接触する生活をし（マルコ 1:35. ルカ 5:16. 6:12. 9:28. ヘブル 7:25）、絶えず神の臨在の中で生き（使徒 10:38 後半. ヨハネ 8:29. 16:32）、人々と接触するとき、神を彼らの中へと供給して、彼らを神の新約エコノミーのヨベルへもたらしました（ルカ 4:18-19. ヘブル 8:2. 参照、創 14:18. 使徒 6:4）。

5. 彼は、この世の支配者であるサタンが、彼の中では何も持たない（何の立場もなく、何の機会もなく、何の望みもなく、いかなることで何の可能性もない）人でした——ヨハネ 14:30 後半, 参照、20 節. II コリント 12:2 前半. コロサイ 1:27. II テモテ 4:22. ヨハネ 3:6 後半. 4:23-24. I ヨハネ 5:4, 18。

E. 主の模範にしたがって神・人の生活をする唯一の道は、わたしたちの全存在をミングリングされた霊に付け、ミングリングされた霊にしたがって歩き、生き、存在することです——ローマ 8:2, 4, 10, 6, 11, 16. I コリント 6:17. ローマ 10:12. ガラテヤ 5:25. エペソ 6:17-18. I テサロニケ 5:16-20. I テモテ 4:6-7. II テモテ 1:6-7。

F. 「わたしたちはみな、神・人の生活をしたいと宣言すべきです。最終的に、神・人は勝利を得る者、勝利者、エルサレムの中のシオンとなります。これは歴史において決して見られたことがない新しい復興をもたらし、これはこの時代を終わらせます」——「歴代志上、下ライフスタディ」、メッセージ 3。

IV. わたしたちが新しい復興の中へと入ることができるのは、キリストの天の務めにあずかって、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養して、神の群れを顧みることによります。神の群れは召会であり、キリストのからだという結果になります。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併することです——ヨハネ 21:15-17. I ペテロ 2:25. 5:1-4. ヘブル 13:20-21. 啓 1:12-13 :

A. わたしたちは務めにおける主イエスの模範にしたがって、人々を牧養し、神の永遠のエコノミーを完成する必要があります——マタイ 9:36. ヨハネ 10:11. ヘブル 13:20. I ペテロ 5:4 :

1. 神の全体的な救いにおける神の新約エコノミー全体の内容とは、人の子としてのキリストがわたしたちを罪から贖うことによってわたしたちをはぐくみ、彼の死を通して法理的な贖いを完成し（I テモテ 1:15. エペソ 1:7）、神の御子としてのキリストがわたしたちを養い、神聖な命をわたしたちの中へと豊かに分け与えて、彼の復活の中で有機的な救いを遂行するということです（ヨハネ 10:10. I コリント 15:45 後半. エペソ 5:29）。

2. わたしたちが御父の愛し赦す心と、救い主の牧養し捜す霊を持たないことが、わたしたちが実を結ばないことの原因です——ルカ 15:1-24。

3. わたしたちはイエスの人性の中で、人々をはぐくむ（彼らを幸いにし、喜ばしく心地良く感じさせる）必要があります（マタイ 9:10. ルカ 7:34）。わたしたちはキリストの神性の中で、人々を養う（キリストの三つの時期の務めにおいて、すべてを含むキリストをもって彼らを養う）必要があります——マタイ 24:45-47。

4. キリストがサマリアを通過し、ことさらスカルに迂回しなければならなかったのは、一人の不道德な女を得て、飲むものを与えるよう彼女に求めることによって、

- 彼女をはぐくみ、命の水の川としての流れる三一の神をもって、彼女を養うためでした——ヨハネ 4:3-14. 啓 22:1。
5. 罪のない方として、彼は姦淫の女を罪定めしたのではなく、彼女をはぐくみました。それは、法理的に彼女の罪を赦し、有機的に彼女の罪から自由にするためでした（ヨハネ 8:1-11, 32, 36）。キリストによって、彼の十字架を通して最初に救われた人が、死刑判決を受けた強盗であったことも意義深いのです（ルカ 23:42-43）。
6. 主がエリコに行ったのはただ、一人の人、取税人のかしらを訪問し、得るためでした。彼の宣べ伝えることは、牧養することでした（19:1-10）。彼はまた子供たちに手を置くことによって、彼らの両親をはぐくみました（マタイ 19:13-15）。
- B. わたしたちは使徒パウロの模範にしたがって、人々を牧養する必要があります。パウロは養う母、また勧めをする父として聖徒たちを牧養し、神の群れを顧みしました——I テサロニケ 2:7-8, 11-12. I テモテ 1:16. 使徒 20:28 :
1. パウロがエペソの聖徒たちを牧養したのは、「公にも、また家から家でも」、彼らを教えることによって（20 節）、また三年の間、涙をもって聖徒たち一人一人を訓戒し（31, 19 節）、彼らに神のみこころをすべて、余すところなく言い表すことによってでした（27 節）。
2. パウロは信者たちに親密な心遣いを持ち（II コリント 7:2-7. ピレモン 7, 12 節）、弱い人の水準に下って来ました。それは、彼が彼らを得ることができるためでした（II コリント 11:28-29. I コリント 9:22. 参照、マタイ 12:20）。
3. 彼は進んで、聖徒たちのために、彼が持っているもの、すなわち彼の所有物を費やし、彼であるもの、すなわち彼の存在を費やしました（II コリント 12:15）。彼は注ぎのささげ物であり、ぶどう酒を生み出す者としてのキリストと一であり、自分自身を犠牲にして、他の人がキリストを享受するようにしました（ピリピ 2:17. 士 9:13. エペソ 3:2）。
4. パウロは霊によって歩いて神を尊びました。それは、彼がその霊を供給して、人を尊ぶことができるためでした——II コリント 3:3, 6, 8. ガラテヤ 5:16, 25. 士 9:9。
5. パウロが彼の教えの中で示したのは、召会が人々を育てる家、彼らをいやし回復する病院、彼らを教え啓発する学校であるということです——エペソ 2:19. I テサロニケ 5:14. I コリント 14:31。
6. 彼が啓示したのは、キリストのからだを建造するために、わたしたちが何であっても、何を行なっても、愛が最も卓越した道であるということです——I コリント 8:1. 12:31. 13:4-8 前半. エペソ 1:4. 3:17. 4:2, 15-16. 5:2. 6:24. 啓 2:4-5. コロサイ 1:18 後半. I テサロニケ 1:3。
- C. 「わたしたちがこの牧養する負担を受け入れることによって、わたしたちの間に真の復興があるようになることを、わたしは望みます。すべての召会がこの教えを受け入れ、キリストのすばらしい牧養にあずかるなら、回復の中に大きな復興があるようになります」——「バイタルグループ」、メッセージ 4。